

## 北魏を中心とした造像例及び仏教時事に関するノート

仲 嶺 真 信

### 北魏を中心とした造像例及び仏教時事に関する一覧 (年表)

[凡例]

1 図書・図録等は以下のように著者名, 正式書名, 発刊所, 刊行年, 図書・図録の略称の順で記入した。

図録『有隣館精華』藤井有隣館学芸部, 昭和60, 以下『有隣』。図録『金銅仏・中国・朝鮮・日本』東京国立博物館, 1988, 以下『金銅仏』。松原三郎『増補・中国仏教彫刻史研究』吉川弘文館, 昭和41, 以下『松原本』。水野清一『中国の彫刻』日本経済新聞社, 1960, 以下『中彫』。水野清一『中国の仏教美術』平凡社, 昭和43年, 以下『中仏』。図録『中国仏教彫像』大阪市立美術館, 昭和59, 以下『市美彫像』。『中国の美術1・彫刻』淡交社, 昭和57, 以下『淡交本』。『中国美術全集・彫塑編3・魏晋南北朝彫塑』1988, 人民美術出版社, 以下『全集3』。北野正男『中国石仏像』綜藝舎, 1958, 以下『中石』。

『特別展示・中国古式金銅仏と中央・東南アジアの金銅仏』和泉市久保惣記念美術館, 1988, 以下『久保古式』。『特別展示・六朝時代の金銅仏』和泉市久保惣記念美術館, 1991, 以下『久保六金』。大阪市立美術館・図録『六朝の美術』朝日新聞, 昭和51, 以下『六朝』。『金銅仏造像特展図録』国立故宮博物院, 1989,

以下『故宮金銅仏』。『海外遺珍・仏像』国立故宮博物院, 1986, 以下『遺珍』。『中国美術第三卷・彫塑』講談社, 昭和47, 以下『中美』。『メトロポリタン美術全集・第11巻』福武書店, 1987, 以下『福武』。『大阪市立美術館蔵品選集』大阪市立美術館, 1986, 以下『市美選集』。『世界の美術館35・フリーア美術館I』講談社, 1971, 以下『フリーア』。『世界美術大系・第9巻・中国美術』講談社, 1965, 以下『大系』。『哲敬堂珍藏選輯・中国古仏彫』財団法人覚風仏教芸術文化基金会, 中華民国, 1989, 以下『哲敬堂』。『中国の博物館・第1巻・陝西省博物館』講談社, 1981, 以下『陝西博』。『中国の博物館・第4巻・南京博物院』講談社, 1982, 以下『南京博』。『中国の博物館・第8巻・上海博物館』講談社, 1983, 以下『上海博』。『ボストン美術館・東洋美術名品集』日本放送出版協会, 1991, 以下『ボストン名品』。『細川家コレクションを中心とした中国の仏像展』熊本美術館, 1985, 以下『細川』。『パリ・ギメ博物館東洋美術の秘宝』京都国立博物館, 1979, 以下『ギメ東洋』。『世界の美術館14・ギメ東洋美術館』講談社, 1968, 以下『世界ギメ』。『みずゑ NO.912』美術出版社, 1981, 以下『みずゑ912』。『西域文化研究・

第五・中央アジア仏教美術』法蔵館, 1962, 以下『西域文化』, 『大原美術館VI・東洋の美術』大原美術館, 昭和46, 以下『大原』, 『館蔵・仏教の美術』根津美術館, 昭和55, 以下『根津』,

d' Argencé, Turner 『The Avery Brundage Colletion, Chinese, Korea and Japanese Sculpture, Asian Art Museum of San Francisco』Kodansha International, 1974, 以下『A. B. C』. William Watson 『Art of Dynastic China』Harry N. Abrams, Inc., Publishers, New York, 1981, 以下『Dynastic』. Chistian Derdier 『Les Bronzes Chinois』Office du Livre, Suisse, 1980, 以下『Chinois』.

- 2 所蔵・保管についてはその名称を括弧内のように省略した。

東京国立博物館(東博), 京都国立博物館(京博), 大阪市立美術館(大阪市美), 藤井有隣館(有隣館), 和泉市久保惣記念美術館(久保惣), 大倉集古館(大倉), 大和文華館(大和文華), 佐野美術館(佐野美), 出光美術館(出光美), 書道博物館(書道博), 根津美術館(根津美), 永青文庫(永青), 東京芸術大学(芸大), 藤田美術館(藤田美), 浜松市美術館(浜松市美), 大原美術館(大原美), 香雪美術館(香雪美), 陝西省博物館(陝西博), 上海博物館(上海博), 南京博物院(南京博), 内蒙古博物館(内蒙博), 山東省博物館(山東博), 山西省博物館(山西博), 甘肅省博物館(甘肅博), 河北省博物館(河北博), 国立故宮博物院(故宮), 四川省博物館(四川博), 酒泉市博物館(酒泉博), 中国歴史博物館(中国歴博)

Asian Art Museum of San Francisco (A. A. M. S.), The Metropolitan Museum of Art (Metropolitan), The William Rockhill Nel-

son Gallery of Art (Nelson Gallery), University Museum, University of Pennsylvania (Pennsylvania), The Cleveland Museum of Art (Cleveland), The William Hayes Fogg Art Museum, Harvard University (Fogg), The Detroit Institute of Art (Detroit), The Freer Gallery of Art (Freer), The British Museum (B. M.), The Seattle Art Museum (Seattle), The Royal Ontario Museum (Royal Ontario), Museum Rietberg (Rietberg), Boston Museum of Fine Arts (Boston), The Museum Guimet (Guimet), The St. Louis Art Museum (St. Louis), Cininnati Art Museum (Cininnati.)

- 3 作品の名称については, いわゆる金銅仏の場合は, 原則として「金銅」, 青銅製の場合は「銅造」, 石仏もしくは石仏龕の場合は「石造」とした。
- 4 作品は, その名称の前に原則として, 年紀銘がはっきりとしている場合は◎印を付け, 逆に推定年代に基づく場合は無印とした。さらに一覧表の時事については, 北魏の場合と, もしくは北魏と関連性が認められる場合は\*印を, 一方, 北魏以外の作品や時事の場合は☆印を付けた。
- 5 一覧表では, 北魏仏を中心に扱っているが, 一部, 同時代の道教像および南朝仏像についても参考作品として併記した。なお, 一覧表の記載は, 原則として, 国名, 名称, 時代, 所蔵・保管場所, (出土地), 収録図書・図録, 簡単な特徴やメモ等を記入する順序で行った。

6 年表作成に当たっては、主に『塚本善隆著作集・第一巻・魏書釈老志の研究』（大東出版社、昭和49年）所収の「魏晉南北朝仏教史年表」（大川富士男編）を参照し、一方、作品の推定年代については、便宜上主に松原三郎『増補・中国仏教彫刻史研究』（吉川弘文館、昭和41）に依拠した。なお、一部、北魏時代の道教と南朝の時事についても記入した。

1 ☆後趙（羯）・建武四（338）年銘・金銅仏坐像（A.A.M.S.旧 Mr.Avery Brundage Collection, Chicago. 『中彫』図88. 『中美』図6. 『中仏』図1. 『淡交本』図2. 『全集3』図29. 『遺珍』図1. 『A.B.C』図19. 『Chinois』図111. 『Dynastic』図69）

2 \* 金銅仏坐像（十六国～北魏. 河北博蔵. 1955年河北省石家荘北宋村出土. 『全集3』図35. 光背に飛天と脇侍と円蓋が付く、獅子座中央に陰刻の蓮華文、禪定印。仏像は『大系』P183図19および『松原本』挿図4の五胡・金銅仏とほぼ同じだが台座が異なる）

3 \* 金銅仏坐像（十六国, 5世紀初. 芸大蔵. 『松原本』図7 a. 『市美彫像』図4. 『金銅仏』図6. 仏像・光背形式とも1に近い）

4 \* 金銅仏坐像（北魏. 甘肅博蔵. 1975年甘肅省涇川県玉都郷出土. 『全集3』図101. 二重円光と円蓋、獅子座中央に陽刻の蓮華文、禪定印）

5 \* 金銅仏坐像（十六国. 新田コレクション. 『久保古式』図45. 甘肅博蔵『全集3』図101と近似）

6 \* 金銅仏坐像及び眷族像（5世紀. 出光美蔵. 『金銅仏』図5. 光背に五化仏、一菩薩、一羅漢、一飛天. 台座両脇に二菩薩立像. 本尊獅子座に陽刻の蓮華と供養像）

7 \* 北魏・金銅仏坐像（Nelson Gallery. 『遺珍』

図3. 特に台座中央に陽刻蓮華文を表現する点が出光美蔵・『金銅仏』図5と酷似）

8 \* 金銅仏坐像（十六国, 4世紀. 新田コレクション. 『故宮金銅仏』図56. 台座下中央に陽刻の蓮華. 甘肅博蔵. 『全集3』図101に台座形式が近似）

9 \* 金銅仏坐像（十六国, 4世紀. 旧平野古陶軒蔵. 現新田コレクション. 『中彫』図89. 『故宮金銅仏』図57. 『中仏』挿図9. 台座下中央に陽刻の博山爐, 右手施無畏・左手衣端を持つ）

10 \* 金銅仏坐像（北魏早期. 河北博蔵. 『全集3』図86. 甘肅博蔵. 『全集3』図101に近似する着衣と禪定印）

11 ☆前涼（漢）・升平十（366）年・敦煌石窟開鑿開始（東晋・太和元年）.

12 ☆北涼（匈奴）・大縁二（377）年銘・程段兒石塔（酒泉博蔵. 甘肅省酒泉市出土. 『全集3』図31）

13 \* 北魏（鮮卑）・登国元（386）年, 北魏・拓跋珪（道武帝）代王を称す.

14 \* 北魏・皇始元（396）年, 沙門法果, 道人統となる.

15 \* 北魏・皇始二（397）年, 北魏（鮮卑族）帝国の成立.

16 ☆北涼（397-439）・白雙旦造像石塔（甘肅博蔵. 甘肅省酒泉市出土. 『全集3』図32）

17 ☆北涼（397-439）・造像石塔（甘肅博蔵. 甘肅省酒泉市出土. 『全集3』図33）

18 \* 北魏・天興元（398）年, 北魏, 盛楽から平城へ遷都, 平城に五級仏塔を建立.

19 \* 北魏・天興二（399）年, 北魏五経博士を置く.

20 ☆東晋（漢）・隆安三（399）年, 法顕インドへ向かう.

21 ☆後秦（羌）・弘始元（399）年, 後秦・姚興洛陽を陥す.

22 \* 北魏・天興三（400）年, 北魏仙人博士を置

- く、
- 23☆後秦・皇初三(401)年,十二月鳩摩羅什(344-413)長安へ入る。
- 24\*北魏・永興元(409)年,太宗明元帝即位。北魏・拓跋珪(道武帝)殺さる。
- 25☆西秦(鮮卑)・建弘元(420)年・炳靈寺石窟開鑿開始。
- 26\*北魏・泰常元(416)年,北魏・法果卒す。
- 27\*北魏・始光元(424)年,世祖・太武帝即位。四月太武帝行像を臨観し,散花礼拝す。
- 28\*北魏・始光二(425)年,北魏道士・寇謙之,道壇を設置す。
- 29\*北魏・始光四(427)年,北魏,天師道場を建てて。
- 30☆夏(匈奴)・勝光二(429)年銘・金銅仏坐像(大阪市美蔵,『中彫』図90,『市美彫像』図7,『市美選集』図171,『中仏』挿図25,26)
- 31\*北魏・神嘉三(430)年,北魏が長安を陥す。
- 32\*北魏・延和元(432)年,北魏玄高,太子晃の師傅となる。
- 33☆劉宋(漢)・元嘉十四(437)年銘・金銅仏坐像(永青蔵,『中彫』図92,93,『松原本』図9a,b,『市美彫像』図8,『六朝』図61,『金銅仏』図7,『中仏』図7,『淡交本』図7,『細川』図3,『全集3』図37)
- 34\*北魏・太延四(438)年,三月北魏,50歳以下の沙門を還俗させる。
- 35\*北魏・太延五(439)年,北涼は北魏に平定され,北魏による北中国統一。
- 36◎北魏・太平真君元(440)年銘・石造仏坐像(旧端方氏蔵,『中仏』挿図27)
- 37◎北魏・太平真君二(441)年銘・金銅弥勒仏三尊並列立像(寧夏西吉県文物管理所蔵,寧夏回族自治区西吉県出土,『全集3』図87)
- 38\*北魏・太平真君三(442)年,太武帝,道壇に登り符録を受ける。
- 39◎北魏・太平真君三(442)年銘・石造半跏菩薩像(松田福一郎蔵,『松原本』図11a.b,『中仏』挿図28)
- 40◎北魏・太平真君四(443)年銘・金銅弥勒仏立像(個人蔵,『中彫』図8,94,95,『松原本』図12,13a.b,『市美彫像』図9,『金銅仏』図8,『久保古式』図53,『淡交本』図8)
- 41\*北魏・太平真君五(444)年,正月沙門の私養を禁止する。九月北魏玄高殺される。
- 42\*北魏・太平真君七(446)年,三月蓋呉の乱,太武帝仏教弾圧の詔発布,興安元(452)年まで続く。
- 43\*北魏・太平真君九(448)年,天師寇謙之卒す。
- 44\*北魏・太平真君十一(450)年,六月北魏崔浩殺される。
- 45 北魏450-480年頃・石造仏立像(大倉蔵,河北省涿県永楽村出土,『中彫』図40,41,『松原本』図21,『中仏』図2,挿図55,56,『淡交本』図11,『遺珍続』図3)
- 46\*北魏・正平元(451)年,太子晃(恭宗)卒す。
- 47☆劉宋(漢)・元嘉二十八(451)年銘・金銅仏坐像(Freer,『フリーア』図73,『中美』図8,『中仏』挿図8)
- 48\*北魏・正平二・二月/興安元(452)年,太武帝卒す(45才)。
- 49\*北魏・興安元(452)年十月,高宗・文成帝即位(13才),十二月仏教復興の詔発布,帝身に似た石仏像を造立させる。
- 50◎北魏・興安二(453)年銘・金銅仏坐像(対馬1988年発見,現佐護氏保管,『人間の美術3・仏教の幻惑』学習研究社,1989,図6.禪定印釈迦像,四月八日造立,火中痕甚だしい)
- 51\*北魏・興安二(453)年,曇曜召されて平城に入る。

- 52\*北魏・興光元(454)年,五級大寺に太祖以下北魏の五帝のために丈六の釈迦像五体を鑄造し安置。
- 53◎北魏太安元(455)年銘・石造仏坐像(有隣館蔵。『松原本』図16a.b,『有隣』図15,『六朝』図228,『中仏』挿図29)
- 54◎北魏・太安三(457)年銘・石造仏坐像(白川一郎氏蔵。『中彫』図36,37,『松原本』図14,15,『市美彫像』図10,『六朝』図50,229,『中石』図1,『中仏』挿図31)
- 55\*北魏・和平初(460-464)年頃,北魏初代沙門統・師賢(罽賓国人)卒す。第二代沙門統に曇曜(北涼国人)就任。
- 56\*北魏・和平元(460)年頃から曇曜が文成帝に奏上し,雲岡石窟開鑿開始。
- 57◎北魏・和平元(460)年銘・鎏鍍三尊像(『松原本』図29a,『遺珍統』図6,『A.B.C』図22,『西域文化』図182)
- 58\*北魏・和平三(462)年,曇曜,浄土三昧經を訳す。
- 59 北魏460-485年頃・金銅仏板(『松原本』図29b,鎏鍍)
- 60 北魏460-490年頃・金銅釈迦仏坐像(旧長尾美術館蔵,現新田コレクション,『中彫』図108,109,『松原本』図30,31,『六朝』図62,『金銅仏』図11,『淡交本』図14,台座形式が新田コレクション・太和元(477)年銘金銅仏坐像に近似,光背裏に陰刻三尊仏)
- 61 北魏460-510年頃・石造三尊像(東博蔵,『松原本』図57b)
- 62 北魏・和平五(464)年銘・石造仏坐像(旧壺中居所蔵,『松原本』図17a,『中仏』挿図33,銘文は追刻か?)
- 63◎北魏・和平五(464)年銘・金銅無量寿仏坐像(『松原本』図18a.b.c.d,『六朝』図266,『久保古式』図54,『久保六金』図4)
- 64\*北魏・和平六(465)年,疎勒国,北魏に仏袈裟を献上。五月文成帝卒す(26才),顯祖獻文帝即位(12才)。
- 65☆宋(漢)・景和元(465)年,沙門が王者を拜することを廃止。
- 66 北魏465-475年頃・石造仏坐像(中西文三氏蔵,『松原本』図20b,『中仏』挿図46,『市美彫像』図37,『中石』図2)。
- 67 北魏465-485年頃・石造仏坐像(有隣館蔵,『松原本』図34a,『中仏』挿図49,像裏に交脚菩薩像)
- 68 北魏465-480年頃・金銅仏坐像(『松原本』図28a)
- 69 北魏465-480年頃・銅造交脚菩薩像(『松原本』図28b)
- 70◎北魏・天安元(466)年銘・石造仏坐像(旧山口コレクション,現大阪市美蔵,『松原本』図17b,『市美彫像』図35,『市美選集』図174,『六朝』図49,『淡交本』図10,『中仏』挿図34,筆者撮影写真)
- 71\*北魏・天安元(466)年,北魏馮太后称制す。
- 72\*北魏・皇興元(467)年,高祖孝文帝誕生。平城に永寧寺建立。
- 73 北魏467-487年頃・金銅仏立像(浜松市美蔵,『松原本』図39c,『久保六金』図38,銘文「比丘慧佑供養」)
- 74 北魏467-487年頃・銅造仏立像(浜松市美蔵,『松原本』図39d.e,『久保六金』図32,光背裏に三尊像と飛天)
- 75◎北魏・皇興三(469)年銘・金銅観音立像(B.M,『遺珍』図20,光背裏に陰刻の二仏並坐像・鳥・供養者像)
- 76\*北魏・皇興四(470)年頃,北魏,平城に三級の石塔を建立。
- 77◎北魏・皇興四(470)年銘・金銅菩薩立像(『中彫』図96,『松原本』図23a.b)

- 78 北魏470年前後・石造交脚仏像 {『松原本』  
図27a, 陝西博蔵・皇興五 (471) 年銘・石造  
交脚仏像に近い}
- 79 北魏470-490年頃・金銅仏坐像 (『松原本』  
図35c)
- 80 北魏471-498年頃・金銅仏立像 {A. A. M.  
S. 『遺珍続』図19, 『A. B. C』図21, 皇興五  
(471) 年銘・金銅弥勒仏立像と泉屋博古館  
蔵・太和二十二 (498) 年銘・金銅仏立像との  
間と推定される}
- 81◎北魏・皇興五 (471) 年銘・石造交脚仏像 (陝  
西博蔵, 1949年以前陝西省興平県出土, 『大系』  
P166の図1, 『淡交本』図12, 『全集3』図69・裏  
表, 裏面に仏伝図)
- 82◎北魏・皇興五 (471) 年銘・金銅仏立像 (『松  
原本』挿図18)
- 83\* 皇興五 (471) 年, 献文帝 (18才) は高祖・  
孝文帝 (5才) に譲位, 献文帝は延興六 / 承  
明元 (476) 年卒す (33才)。
- 84\* 北魏・延興元 (471) 年, 北魏, 平城に鹿野  
仏塔を建立。
- 85◎北魏・皇興五 (471) 年銘・金銅弥勒仏立像  
(『中彫』図97, 『松原本』図24, 25, 『市美彫像』  
図77, 『金銅仏』図10, 『久保古式』図55, 『久保  
六金』図43, 光背表に五化仏, 光背裏に樹下思惟  
像)
- 86◎北魏・延興二 (472) 年銘・石造交脚弥勒仏  
像 (陣哲敬蔵, 『哲敬堂』図15, 16, 背面に上から  
下へ誕生, 武芸, 捨身飼虎図が続く)
- 87 北魏・延興二 (472) 年頃・石造交脚弥勒仏  
像 (旧長尾美術館蔵, 『中彫』図38, 『松原本』図  
27, 『中仏』挿図47, 台座中央に博山香爐と左右  
に跪坐供養者各二体)
- 88◎北魏・延興二 (472) 年銘・石造仏龕坐像 (書  
道博蔵, 『松原本』20a, 『中仏』挿図35)
- 89◎北魏・延興二 (472) 年銘・金銅二仏並坐像  
(旧デ, ヤング美術館蔵, 現 A. A. M. S. 『六朝』  
挿図122, 『遺珍続』図7, 『A. B. C』図23,  
『Chinois』図121, 『Dynastic』図70)
- 90◎北魏・延興二 (472) 年銘・石造仏坐像 (旧  
藤木正一氏蔵, 現大和文華蔵, 『松原本』図19a,  
b, c, 『六朝』図230, 『中仏』挿図37, 大和文華館  
提供写真)
- 91\* 北魏・延興二 (472) 年, 北魏無籍の僧尼を  
検し, 造寺造塔を禁止, 曇曜, 雜宝蔵経・  
付法蔵因縁伝を訳す。
- 92\* 北魏・延興三 (473) 年, 北魏沙門・慧隱,  
乱をなす。
- 93◎北魏・延興四 (474) 年銘・銅造三尊仏板 (大  
阪市美蔵, 『市美彫像』図155, 太和七 (483)  
年・『久保古式』図37と近似)
- 94◎北魏・延興五 (475) 年銘・金銅仏立像 (『中  
彫』図98, 『松原本』図26, 『市美彫像』図78, 『六  
朝』図60, 『淡交本』図13)
- 95◎北魏・延興五 (475) 年銘・金銅仏立像 (河  
北博蔵, 河北省滿城県陽驛郷孟村出土, 『全集3』  
図88, 光背裏に陰刻の坐仏, 台座両脚部に陰刻の  
坐仏各一体)
- 96◎北魏・延興五 (475) 年銘・金銅弥勒仏立像  
(『松原本』挿図19)
- 97\* 北魏・延興五 (475) 年, 孝文帝が石窟寺へ  
行幸, 以降483年まで4度にわたり行幸。
- 98◎北魏・延興六 (476) 年銘・石造仏坐像 (『ボ  
ストーン名品』図126)
- 99 北魏475-495年頃・坐仏龕像 (『松原本』図  
54a)
- 100\* 北魏・承明元 (476) 年, 六月馮太后, 献文  
帝を殺し, 再び称制す, 八月孝文帝, 永  
寧寺にて法会を設け, 僧尼を度す, 僧祇  
戸・仏図戸を設置。
- 101◎北魏・太和元 (477) 年銘・金銅仏坐像 (旧  
梅原, 現新田コレクション, 『中彫』図102, 103,

『松原本』図32.33. 『市美彫像』図79. 『金銅仏』  
図12. 『故宮金銅仏』図58. 新田氏提供写真. 光  
背裏に二仏並坐像, 維摩と文殊, 誕生, 灌頂の図)

102 北魏・太和元(477)年銘・金銅弥勒仏立像  
{Metropolitan. 『中彫』図100,101. 『金銅  
仏』図9. 『中美』図9. 『遺珍』図5. 『Dynas-  
tic』図73. 『Chinois』図113. 銘文に「太和  
元(477)年正月二十四日」「造弥勒像一軀」  
と刻字されているが, とくに年紀部分は偽銘  
と考えられる. なお『中美』は460年代とす  
る. 台座形式が旧長尾美術館蔵・現新田コレ  
クション金銅坐像に近い}

103 \*北魏・太和元(477)年, 孝文帝, 永寧寺に  
幸し設齋す.

104 北魏477-487年頃・金銅仏坐像(『松原本』  
図35a)

105 北魏477-487年頃・金銅仏坐像(『松原本』  
図37b)

106 北魏477-499年頃・金銅仏立像(『中彫』図  
106A. 『松原本』図47a. b. 光背表に飛天と坐仏,  
光背裏に陰刻坐仏)

107 北魏477-499年頃・銅造仏坐像(『松原本』  
図28c. d)

108 北魏・太和(477-499)年頃・石造仏坐像(旧  
京都・雑賀信也氏蔵, 現芸大蔵, 『松原本』図34  
b. 『市美彫像』図38. 『中仏』挿図51. 銘文「張  
興造」. 『松原本』は北魏477-487年頃とする)

109◎北魏・太和二(478)年銘・銅造仏坐像(山  
東省惠民県出土. 『六朝』挿図123. 『松原本』挿  
図7. 対馬発見金銅仏に近い)

110◎北魏・太和二(478)年銘・金銅弥勒仏坐像  
(『松原本』図35b. 『六朝』図272)

111◎北魏・太和四(480)年銘・金銅二仏並坐像  
(『松原本』図36a. b. 二仏裏は三尊, 台座脚部に  
供養者二体)

112 北魏・太和四(480)年銘または太和十四

(490)年銘・金銅仏坐像(大和文華蔵. 『松  
原本』図40a. b. 『六朝』図276. 『久保六金』図10.  
大和文華館提供写真. 庚□銘. 台座表両脚部に供  
養者二体, 光背裏に坐仏)

113 \*北魏・太和四(480)年, 馮太皇太后のため  
に報徳寺を建立.

114 北魏480-495年頃・金銅仏坐像(『松原本』  
図37c. 光背に三化仏)

115 北魏480-500年頃・銅造仏立像(『松原本』  
図48c)

116 \*北魏・太和五(481)年, 北魏沙門法秀, 乱  
をなす.

117 \*北魏・太和六(482)年, 孝文帝, 雲岡石窟  
に幸す.

118◎北魏・太和六(482)年銘・金銅釈迦坐像(『松  
原本』挿図6)

119◎北魏・太和六(482)年銘・金銅釈迦坐像  
(『松原本』図37a. 光背に三化仏)

120◎北魏・太和六(482)年銘・金銅無量寿仏立  
像(『松原本』図44c)

121◎北魏・太和六(482)年銘・銅造弥勒仏立像  
(静岡・佐野美蔵. 『松原本』図45c. 『久保六金』  
図96. 銘文は追刻か)

122☆南齊(漢)・永明元(483)年銘・石造仏坐  
像(四川博蔵. 無量寿仏, 『大系』P173の図8.  
『全集3』図44, 表裏像)

123◎北魏・太和七(483)年銘・銅造三尊仏板(『久  
保六金』図37)

124 \*北魏・太和七(483)年, 同姓の通婚を禁止  
(混血の奨励).

125◎北魏・太和八(484)年銘・金銅仏坐像  
{Fogg. 『遺珍』図6. 獅子座に供養菩薩立  
像. 新田コレクション太和元(477)年銘・金  
銅仏坐像に近い}

126◎北魏・太和八(484)年銘・金銅釈迦坐像  
(内蒙博蔵. 1956年内蒙古自治区烏蘭察布盟托

- 克托県古城出土、『全集3』図92、『松原本』挿図5. Fogg 蔵『遺珍』図6に近い)
- 127◎北魏・太和八(484)年銘・金銅観音立像(A. M. S. 『松原本』図38a. b. 『久保六金』図48. 『遺珍』図22. 『A. B. C』図20.)
- 128◎北魏・太和八(484)年銘・銅造仏立像(出光美蔵. 『中彫』図106B. 『松原本』図38c. 『六朝』図63. 『久保六金』図44)
- 129◎北魏・太和八(484)年銘・金銅仏立像(山東博興県文物管理所蔵. 山東省博興県崇徳村出土. 『全集3』図91. 『久保六金』図39. 40に近い)
- 130◎北魏・太和八(484)年銘・銅造弥勒仏立像(『久保六金』図39)
- 131◎北魏・太和八(484)年銘・金銅弥勒仏立像(『松原本』挿図20)
- 132◎北魏・太和八(484)年銘・銅造観音立像(『久保六金』図49. 光背裏に陰刻半跏菩薩)
- 133◎北魏484-498年頃・金銅菩薩立像(Seattle. 『遺珍』図23. 『久保六金』図49と図50に近い)
- 134◎北魏・太和九(485)年銘・銅造仏立像(新田コレクション. 『故宮金銅仏』図59. 『市美彫像』図80. 『久保六金』図45)
- 135\*北魏・太和九(485)年. 讖緯・巫覡を禁止.
- 136 北魏金銅観音立像(B. M. 『故宮金銅仏』図20. 光背表は新田コレクション・太和九(485)年銘・金銅仏立像の光背に近く. 台座は皇興五(471)年銘・金銅仏立像(『市美彫像』図77)に似る. 光背裏面に. 二仏並坐像)
- 137\*北魏・太和十(486)年. 北魏は服制を中国式に改める(冕服式/紳帶式/褒衣博帶式仏衣へとつながる). 冬. 僧尼の戸籍を檢括し. 無行僧尼1327人を還俗させる.
- 138◎北魏・太和十(486)年銘・金銅弥勒仏立像(『松原本』図44e)
- 139◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅菩薩立像(『全集3』図93. 太和八(484)年銘・金銅菩薩立像(『久保六金』図49)および新田コレクション・北魏・太和二十二(498)年銘・金銅観音立像(『故宮金銅仏』図60)にも近い. 光背裏に陰刻半跏菩薩像)
- 140◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅観音立像(熱河省承德出土. 『松原本』挿図24)
- 141◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅弥勒仏坐像(書道博蔵. 『中彫』図107A. 『松原本』挿図8)
- 142◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅二仏並坐像(『松原本』図43a. 釈迦・多宝仏)
- 143◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅仏立像(『松原本』図44d)
- 144◎北魏・太和十三(489)年銘・銅造仏坐像(『中彫』図107B. 台座下に三尊仏坐像)
- 145 北魏・太和□□年銘・石造仏坐像(芸大蔵. 『市美彫像』図38)
- 146◎北魏・太和十三(489)年銘・金銅二仏並坐および三尊仏像(根津美蔵. 『中彫』図9. 104. 105. 『松原本』図41. 42. 『六朝』図65. 『金銅仏』図14. 『淡交本』図15. 『遺珍統』図2. 『根津』図118. 台座両脚部に供養者二体. 中央に香爐)
- 147 北魏485-495年頃・金銅仏坐像(有隣館蔵. 『松原本』図40c. 『市美彫像』図86. 根津美蔵・太和十三(489)年銘・金銅二仏並坐像に近い. 台座両脚部に供養者二体. 中央に博山香爐)
- 148◎北魏・太和十四(490)年銘・金銅光世音立像(『松原本』図48a)
- 149◎北魏・太和十四(490)年銘・銅造仏立像(『久保六金』図40)
- 150◎北魏・太和十四(490)年銘・石造坐仏龕像(『松原本』図57a. 道像風)
- 151\*北魏・太和十四(490)年. 北魏沙門・司馬惠御. 乱をなす. 馮太后卒す. 孝文帝親



政。

止。

- 152 北魏490-510年頃・銅造仏坐像（『松原本』図61a）
- 153◎北魏・太和十五（491）年銘・金銅仏立像（『久保六金』図9）
- 154◎北魏・太和十五（491）年銘・金銅観音立像（『松原本』挿図25）
- 155\*北魏・太和十五（491）年，北魏，道壇を洛外に移し，崇虚寺と改名。
- 156\*北魏・太和十六（492）年，北魏は例年の度僧を4月8日と7月15日の二回とする
- 157◎北魏・太和十六（492）年銘・石造半跏思惟龕像（旧山中商会蔵，旧山口コレクション，現大阪市美蔵，『松原本』図54b，『市美彫像』図131，『市美選集』図175，『六朝』図232，『中仏』図34，『みづゑ912』図5）
- 158◎北魏・太和十六（492）年銘・金銅菩薩立像（『松原本』図48b）
- 159◎北魏・太和十六（492）年銘・金銅弥勒仏坐像（『松原本』図46a，『久保六金』図46）
- 160◎北魏・太和十七（493）年銘・金銅釈迦仏坐像（『松原本』図46b.c，『久保六金』図12，『六朝』279，光背裏に坐仏）
- 161◎北魏・太和十七（493）年銘・金銅仏立像（『中彫』図110A）
- 162\*北魏・太和十七（493）年，僧制四十七条を立てる。
- 163\*北魏・太和十八（494）年，十月平城より洛陽へ遷都，十二月，胡服禁止令。
- 164◎北魏・太和十八（494）年銘・石造仏坐像（Nelson Gallery，『中仏』図35，『中美』図12，『遺珍』図7）
- 165\*北魏・太和十九（495）年頃から龍門石窟開鑿開始（一説には太和十二（488）年頃からとも考えられる）
- 166\*北魏・太和十九（495）年，北魏は胡語を禁

- 167◎北魏・太和十九（495）年銘・銅造仏坐像（『久保六金』図13）
- 168◎北魏・太和十九（495）年銘・金銅仏立像（『松原本』図44a.b，『久保六金』図41，光背裏に三尊）
- 169 北魏495-505年頃・石造二面像（『松原本』図56a.b，56aは交脚菩薩，56bは二仏並坐）
- 170\*北魏・太和二十（496）年，北魏は姓族を改定。
- 171◎北魏・太和二十（496）年銘・金銅二仏並坐および独尊坐像（A.A.M.S.『市美彫像』図82，『六朝』図278，『久保六金』図68，光背裏に陰刻坐仏）
- 172 北魏・太和二〇（496-499）年銘・金銅仏坐像（『六朝』図273）
- 173◎北魏・太和二十（496）年銘・石造釈迦坐像（『松原本』図37，『大系』P167の図2）
- 174\*北魏・太和二十（496）年，少室山に少林寺を建立。
- 175◎北魏・太和二十一（497）年銘・銅造二仏並坐像（『松原本』図43b.c）
- 176\*北魏・太和二十一（497）年，北魏，鳩摩羅什の遺蹟に三級塔を建立，洛陽諸寺の仏像を供養し，諸郡の僧寺に長夏安居させる。
- 177◎北魏・太和二十二（498）年銘・金銅仏立像（泉屋博古館蔵，弥勒如来，『中彫』図10，『松原本』図51，『久保六金』図47，『淡交本』図16，『遺珍続』図1）
- 178◎北魏・太和二十二（498）年銘・金銅光世音立像（新田コレクション，『松原本』図49.50，『故宮金銅仏』図60，『久保六金』図50）
- 179 北魏・金銅観音立像（Seattle，『遺珍』図23，新田コレクション太和二十二（498）年銘・金銅観音立像および正光五（524）年銘・金銅菩薩立像（『市美彫像』図88）と同系統）

- 180◎北魏・太和二十二 (498) 年銘・金銅釈迦坐像 (『久保六金』図62)。光背表に三化仏)
- 181 北魏・太和 (477-499) 銘・金銅釈迦仏立像 (藤田美蔵, 『松原本』図45a.b, 『六朝』図271。光背銘と像身と合致するか疑問)
- 182 北魏・太和□二 (488/498) 年銘・石造三尊仏坐像 (蘆山順吉氏蔵, 『松原本』図52a, 『中仏』挿図39)
- 183◎北魏・太和二十三 (499) 年銘・石造三尊仏立像 (Cleveland, 『遺珍』図8, 『六朝』挿図104)
- 184\* 北魏・太和二十三 (499) 年, 孝文帝卒す。宣武帝即位。
- 185\* 北魏・景明元 (500) 年, 宣武帝が洛陽龍門に開掘の発願。
- 186◎北魏・景明元 (500) 年銘・石造仏坐像 (旧山口コレクション, 現大阪市美蔵, 『松原本』図53, 『市美彫像』図39, 『市美選集』図178, 『六朝』図51, 『みずゑ912』図6)
- 187◎北魏・景明元 (500) 年銘・銅造菩薩立像 (『久保六金』図52。光背裏に陰刻二仏並坐像)
- 188 北魏・景明 (500-503) 年頃・石造劉保生造交脚仏三尊像 (陝西博蔵, 『全集3』図71)
- 189 北魏・景明 (500-503) 年頃・銅造観音立像 (『松原本』図48d.e, 銘文「景□」)
- 190 北魏・景明 (500-503) 年頃・金銅仏立像 (『久保六金』図42, 銘文「景明□年」)
- 191 北魏500-515年頃・石造四面仏碑像 (根津美蔵, 『松原本』図67a.b, 68a.b, 『根津』図119)
- 192 北魏500-533年頃・銅造仏坐像 (『松原本』図100d)
- 193◎北魏・景明二 (501) 年銘・石造四面四仏龕像 (陝西博蔵, 陝西省西安市查家寨子出土, 『陝西博』図104~107, 『全集3』図70, 『松原本』挿図36, 『みずゑ912』図P.28 右)
- 194◎北魏・景明二 (501) 年銘・金銅二仏並坐像 (『松原本』図62a.b, 光背裏に陰刻坐仏)
- 195◎北魏・景明二 (501) 年銘・金銅観音立像 (『松原本』図63a.b, 『久保六金』図53)
- 196◎北魏・景明二 (501) 年銘・金銅菩薩立像 (『松原本』図64a.b)
- 197◎北魏・景明三 (503) 年銘・銅造二仏並坐像 (『久保六金』図71, 光背表先端部中央に二仏並坐像同様坐仏)
- 198◎北魏・景明四 (503) 年銘・銅造二仏並坐像 (『久保六金』図69, 光背裏に陰刻坐仏)
- 199◎北魏・景明四 (503) 年銘・石造坐仏龕像 (『松原本』図55a.b, 『中石』図17)
- 200◎北魏・正始元 (504) 年銘・銅造観音立像 (出光美蔵, 『久保六金』図54, 光背裏に薄浮彫の観音立像)
- 201◎北魏・正始元 (504) 年銘・石造三尊仏坐像 (旧山口コレクション, 現大阪市美蔵, 『市美彫像』図40)
- 202◎北魏・正始元 (504) 年銘・銅造仏坐像 (『松原本』図61b, 光背表に三化仏)
- 203◎北魏・正始元 (504) 年銘・金銅二仏並坐像 (『松原本』図62c)
- 204 北魏504-508年頃・銅造仏坐像 (『久保六金』図65)
- 205 北魏504-511年頃・石造三尊像 (『松原本』図59b, 道服)
- 206◎北魏・正始二 (505) 年銘・金銅観音立像 (新田コレクション, 『故宮金銅仏』図61, 『久保六金』図56)
- 207◎北魏・正始三 (506) 年銘・石造三尊像 (『松原本』図60a)
- 208◎北魏・正始三 (506) 年銘・金銅二仏並坐像 (『久保六金』図70, 光背裏に陰刻坐仏)
- 209◎北魏・正始三 (506) 年銘・石造三尊像 (シカゴ自然科学博物館蔵, 『松原本』挿図26)
- 210◎北魏・正始四 (507) 年銘・銅造菩薩立像 (『久保六金』図60)

- 211◎北魏・正始五（508）年銘・石造三尊仏坐像  
（書道博蔵、『松原本』図66a）
- 212 北魏・永平（508-512）銘・石造道教三尊像  
（永青蔵、『中彫』図39A、『松原本』図59a、『六朝』図235、『細川』図10）
- 213◎北魏・永平二（509）銘・銅造仏坐像（『松原本』図61c、『久保六金』図66。光背表に三化仏）
- 214◎北魏・永平二（509）銘・銅造仏立像（『久保六金』図57）
- 215◎北魏・永平三（510）年銘・石造交脚三尊像  
（『松原本』図58、『市美彫像』図44。中尊は交脚、兩脇侍は立像）
- 216◎北魏・永平三（510）年銘・金銅二仏並坐像  
（『松原本』挿図64）
- 217◎北魏・永平四（511）年銘・金銅（明敬武造）  
觀音立像（山東博興県文物管理所蔵。1983年山東省博興県崇徳村出土、『全集3』図94）
- 218◎北魏・永平五（512）年銘・金銅仏立像（『六朝』図277）
- 219◎北魏・延昌元（512）年銘・石造（朱雙熾造）  
仏碑像（陝西博蔵。1950年陝西省華瓜坡支家村出土、『全集3』図72）
- 220◎北魏・延昌元（512）年銘・金銅觀音立像（『松原本』図64a.b。光背裏に二段にわたり五化仏）
- 221◎北魏・延昌二（513）年銘・金銅觀音立像  
（Eskenazi Ltd,Londres.『Chinois』図114）
- 222 北魏512-527年頃・石造三尊仏坐像（『中彫』  
図44,45,『松原本』図87.88,『市美彫像』図41。  
光背裏に二仏並坐）
- 223 北魏512-533年頃・石造半跏思惟像（永青  
蔵。伝西安花塔寺請來將來、『松原本』図89a.b。  
『市美彫像』図132,『細川』図8,『淡交本』図  
34）
- 224 北魏512-527年頃・石造仏立像（大和文華  
蔵,『松原本』図83b）
- 225◎北魏・延昌二（513）年銘・銅造弥勒菩薩立  
像（『松原本』図64c,『久保六金』図78）
- 226◎北魏・延昌二（513）年銘・銅造菩薩立像（『松  
原本』図65a,『久保六金』図77。光背裏に陰刻の  
坐仏と二供養者像）
- 227◎北魏・延昌二（513）年銘・石造三尊仏坐像  
（香雪美蔵,『松原本』図66b,『淡交本』図30）
- 228◎北魏・延昌二（513）年銘・石造三尊仏立像  
（旧山口コレクション,現大阪市美蔵,『松原本』  
図76b,『市美彫像』図42,『市美選集』図188,『み  
ずゑ912』図11。銘文は追刻か）
- 229◎北魏・延昌二（513）年銘・石造天尊坐像（『松  
原本』挿図30）
- 230◎北魏・延昌二（513）年銘・石造交脚菩薩像  
（『中石』図18）
- 231◎北魏・延昌三（514）年銘・石造仏碑像（『松  
原本』図70a）
- 232◎北魏・延昌三（514）年銘・金銅觀音立像（上  
海博蔵,『全集3』図96）
- 233◎北魏・延昌三（514）年銘・金銅菩薩立像（『松  
原本』図74c）
- 234◎北魏・延昌四（515）年銘・石造三尊觀音立  
像（大阪市美蔵,『市美選集』図181,『松原本』  
挿図225）
- 235◎北魏・延昌四（515）年銘・石造道教二尊坐  
像（Boston,『松原本』挿図35）
- 236◎北魏・延昌四（515）年銘・石造三尊仏坐像  
（『松原本』図69a。道像風）
- 237◎北魏・延昌四（515）年銘・石造道教三尊像  
（旧山口コレクション,現大阪市美蔵,『松原本』  
図60b,『市美選集』図179,『六朝』図233,『み  
ずゑ912』図4,『松原本』は追刻とする）
- 238 北魏515-525年頃・石造三尊仏坐像（『松原  
本』図84a）
- 239 北魏515-530年頃・石造三尊仏龕像（『松原  
本』図84b）
- 240 北魏515-530年頃・銅造仏坐像（『松原本』

- 図65c. 『久保六金』 図67. 光背表に三化仏)
- 241 北魏515-533年頃・石造三尊像 (『松原本』 図71b)
- 242 \* 北魏・熙平元 (516) 年, 孝明帝即位, 洛陽に永寧寺建立.
- 243◎北魏・熙平元 (516) 年銘・金銅仏立像 (『六朝』 図280, 光背裏に二仏並坐像あり)
- 244◎北魏・熙平元 (516) 年銘・銅造観音立像 (『松原本』 図74a. b. 『久保六金』 図79)
- 245◎北魏・熙平元 (516) 年銘・銅造菩薩立像 (『久保六金』 図51)
- 246◎北魏・熙平元 (516) 年銘・石造弥勒仏碑像 (Pennsylvania. 『中美』 図18. 『遺珍』 図10)
- 247 北魏516-533年頃・石造三尊仏立像 (根津美蔵, 『松原本』 図86b. 『根津』 図120)
- 248 北魏516-533年頃・銅造半跏思惟像 (『松原本』 図108. 『久保六金』 図87)
- 249◎北魏・熙平二 (517) 年銘・石造仏坐像 (『松原本』 図76a)
- 250◎北魏・熙平二 (517) 年銘・金銅弥勒仏坐像 (山東博興県文物管理所蔵, 1983年山東省博興県崇徳村出土, 『全集3』 図95)
- 251◎北魏・熙平二 (517) 年銘・石造四面碑像 (陝西博蔵, 『みずゑ912』 P29挿図, 『松原本』 挿図42)
- 252 北魏517-527年頃・金銅仏立像 (『中彫』 図110B, 『松原本』 図77a. b. 『市美彫像』 図90. 『金銅仏』 図18.)
- 253 北魏517-527年頃・石造三尊仏坐像 (根津美蔵, 『松原本』 図85a. 『根津』 図121)
- 254 北魏517-527年頃・石造三尊仏龕像 (『松原本』 図85b)
- 255 北魏515-527年頃・石造三尊仏立像 (大原美蔵, 伝河南省新郷県請来将来, 『中彫』 図42, 43. 『松原本』 図93. 『淡交本』 図33. 『大原』 図30. 筆者撮影写真)
- 256 北魏515-527年頃・石造釈迦三尊立像 (St. Louis, 『遺珍』 図9. 大原美蔵『大原』 図30と本尊衣文が近い)
- 257 北魏517-533年頃・石造三尊仏立像 (芸大蔵, 『松原本』 図85c)
- 258◎北魏・熙平三 (518) 年銘・金銅二仏並坐像 (Guimet, 『中彫』 図120. 『ギメ東洋』 図62. 『世界ギメ』 図107. 『中美』 図19. 『淡交本』 図31. 『遺珍』 図11. 『Chinois』 図122)
- 259 北魏518-525年頃・石像 (『松原本』 図69b. 道服)
- 260 北魏518-525年頃・石造仏碑像 (『松原本』 図69c. 道服)
- 261 北魏・熙平 (516-518) 年銘・金銅観音立像 (香川・個人蔵, 『松原本』 図75a. 『六朝』 図68. 『金銅仏』 図15. 『久保六金』 図81. 左手に水瓶を持つ. 本尊は『Chinois』 図115と近い)
- 262 北魏・熙平 (516-518) 年頃・金銅観音立像 {Collection Maurice Bérard, Paris. 『Chinois』 図115. 香川・個人蔵 (熙平年銘) 金銅観音立像に近い}
- 263◎北魏・神亀元 (518) 年銘・金銅交脚菩薩像 (藤田美蔵, 『中彫』 図114, 115. 『松原本』 図78. a. b. 『六朝』 図64. 『金銅仏』 図16. 『遺珍続』 図22. 『全集3』 図97)
- 264◎北魏・神亀元 (518) 年銘・金銅観音立像 (上海博蔵, 『上海博』 図68)
- 265◎北魏・神亀元 (518) 年銘・石造三尊仏坐像 (『松原本』 図71a)
- 266◎北魏・神亀元 (518) 年銘・金銅観音立像 (Freer. 『松原本』 挿図47)
- 267 北魏・神亀□ (519) 年銘・銅造二仏並坐像 (『久保六金』 図74. 光背表先端部中央に坐仏)
- 268◎北魏・神亀三 (520) 年銘・石造碑像 (大原美蔵, 『松原本』 図72a. 『大原』 図34. 『中石』 図20. 道服)
- 269◎北魏・神亀三 (520) 年銘・石造坐仏三尊碑

- 像 (Rietberg, Zurich, 『中美』 図22)
- 270 北魏・神亀 (518-520) 年銘・金銅菩薩立像  
 (『松原本』 図79a. b. c. 光背裏に四段にわたり化  
 仏九体)
- 271◎北魏・正光元 (520) 年銘・石造仏碑像 (旧  
 山口コレクション, 現大阪市美蔵, 『松原本』 図  
 98a, 『市美選集』 図182, 『六朝』 図234, 『みずゑ  
 912』 図7下)
- 272◎北魏・正光元 (520) 年銘・銅造仏坐像 (『松  
 原本』 図65b, 『久保六金』 図16, 光背表に陰刻の  
 五化仏, 光背裏に供養者一体)
- 273◎北魏・正光元 (520) 年銘・金銅仏立像 (A.  
 A. M. S. 『A. B. C.』 図29, 『Chinois』 図110, 『遺  
 珍』 図12)
- 274 北魏正光 (520-525) 年銘・石造四面像 (『松  
 原本』 図69d)
- 275 北魏520-525年頃・石造交脚菩薩碑像 (『松  
 原本』 図73a)
- 276 北魏520-525年頃・石造三尊仏碑像 (『松原  
 本』 図73b)
- 277 北魏520-530年頃・金銅仏立像 (Freer, 『フ  
 リアー』 図116)
- 278 北魏520-533年頃・石造仏坐像 (『松原本』  
 図94a)
- 279 北魏520-533年頃・石造仏坐像 (『松原本』  
 図94b)
- 280 北魏520-533年頃・石造三尊仏立像 (『松原  
 本』 図95)
- 281 北魏520-533年頃・石造三尊仏坐像 (旧山  
 口コレクション, 現大阪市美蔵, 『松原本』 図96  
 a, 『市美彫像』 図49, 『市美選集』 図189, 『六朝』  
 図240, 『みずゑ912』 図13)
- 282 北魏520-533年頃・石造三尊仏坐像 (Cin-  
 nati, 『遺珍』 図4, 大阪市美蔵『市美選集』 図  
 189と光背意匠が近い)
- 283 北魏520-533年頃・銅造菩薩立像 (『松原本』  
 図100a)
- 284 北魏520-533年頃・銅造菩薩倚像 (浜松市美  
 蔵, 『松原本』 図100b. c, 『久保六金』 図86)
- 285 北魏520-533年頃・金銅半跏菩薩思惟像 (『松  
 原本』 図108d)
- 286◎北魏・正光二 (521) 年銘・石造碑像 (Freer,  
 『フリーア』 図117, 『松原本』 図72b)
- 287◎北魏・正光二 (521) 年銘・金銅観音立像 (『松  
 原本』 図80a. b, 光背裏に三段にわたり坐仏七体)
- 288◎北魏・正光二 (521) 年銘・石造弥勒仏立像  
 (曲陽出土, 『松原本』 挿図58)
- 289◎北魏・正光二 (521) 年銘・金銅菩薩立像 (『松  
 原本』 図81a. b)
- 290 北魏・正光二 (521) 年銘・石造道教三尊坐  
 像 (『松原本』 挿図31)
- 291◎北魏・正光三 (522) 年銘・石造三尊仏立像  
 (『松原本』 挿図75)
- 292◎北魏・正光三 (522) 年銘・青銅二仏並坐像  
 (浜松市美蔵, 『松原本』 図62d, 『久保六金』 図  
 75, 光背表先端部中央に坐仏)
- 293◎北魏・正光三 (522) 年銘・金銅菩薩立像 (河  
 北博蔵, 徐水県出土, 『松原本』 挿図59, 『全集3』  
 図98, 99, 光背裏に四段にわたり陰刻坐仏七体)
- 294◎北魏・正光三 (522) 年銘・銅造三尊仏立像  
 (有隣館蔵, 『中彫』 図116, 117, 『有隣』 図16)
- 295◎北魏・正光三 (522) 年銘・石造三尊仏立像  
 (『大原』 図35)
- 296☆梁 (漢)・普通四 (523) 年銘・石造釈迦立  
 像龕 (四川博蔵, 四川省成都西門外万仏寺遺址  
 出土, 『大系』 P175の図9・10, 『全集3』 図54)
- 297◎北魏・正光四 (523) 年銘・石造仏碑像 (『中  
 彫』 図39B, 『松原本』 図70b)
- 298◎北魏・正光四 (523) 年銘・石造仏碑像 (Royal  
 Ontario, 『松原本』 挿図228)
- 299◎北魏・正光四 (523) 年銘・石造仏碑像 (山  
 西省平遙出土, 『松原本』 挿図227)

- 300◎北魏・正光四 (523) 年銘・石造三尊仏立像  
(『松原本』 図86a, 『中石』 図21)
- 301◎北魏・正光五 (524) 年銘・銅造官世音立像  
(『市美彫像』 図88, 『久保六金』 図59)
- 302◎北魏・正光五 (524) 年銘・銅造光世音菩薩  
立像 (東博蔵, 『久保六金』 図58, 光背裏に陰刻  
の坐仏)
- 303\* 北魏・正光五 (524) 年, 洛陽景明寺七層塔  
建立.
- 304◎北魏・正光五 (524) 年銘・金銅弥勒仏立像  
及び眷属像 (Metropolitan, 『中彫』 図118, 『金  
銅仏』 図17, 『中美』 図20, 『淡交本』 図32, 『福  
武』 図30, 『遺珍続』 図15, 『全集 3』 図99,  
『Chinois』 図118, 『Dynastic』 図71)
- 305 北魏・正光年頃・金銅釈迦三尊立像一具  
(Metropolitan, 『中彫』 図119, 『中美』 図21)
- 306 北魏・正光年頃・金銅弥勒仏立像 {Detroit,  
『遺珍』 図15, Metropolitan, 正光五 (524)  
年銘・金銅弥勒仏立像に近い}
- 307 北魏・正光年頃・金銅釈迦立像 {Metro-  
politan, 『中彫』 図119, 『遺珍』 図16, 正  
光五 (524) 年銘・金銅弥勒仏立像 (Metropol-  
itan) に近い}
- 308◎北魏・正光五 (524) 年銘・石造三尊仏立像  
(山東博蔵, 『松原本』 挿図46『六朝』 挿図106)
- 309☆ 羌族私年号・天建元 (524) ・青銅仏坐像 (佐  
野美蔵, 『松原本』 図99a, 『久保六金』 図89, 裳  
懸形式)
- 310 北魏・□昌二 (525) 年銘・石造仏碑像 (『松  
原本』 図82a, b, 83a, 碑身上部に千仏構成)
- 311 北魏525-533年頃・金銅菩薩立像 {浜松市  
美蔵, 『松原本』 図99b, 『久保六金』 図82,  
『久保六金』 の解説は熙平 (516-518), ある  
いは神亀 (518-520) の間}
- 312◎北魏・孝昌二 (526) 年銘・石造二仏並坐像  
(大和文華蔵, 『松原本』 図90a, b, 『市美彫像』  
図136)
- 313◎北魏・孝昌二 (526) 年銘・石造四面像 (大  
原美蔵, 『松原本』 図92, 『大原』 図36, 『大原』  
四方四仏像)
- 314 北魏・孝昌 (525-526) 年銘・銅造二仏並坐  
像 (『松原本』 図91a, b, 光背裏に堂内の坐仏)
- 315◎北魏・孝昌三 (527) 年銘・銅造菩薩立像 (『松  
原本』 図99c)
- 316◎隆緒元 (527) 年銘・石造 (王阿善造) 像 (中  
国歴博蔵, 『全集 3』 図73, 二坐仏三供養者像,  
道服, 道教風貌, 「北魏孝明帝三年, 蕭寶夤反北  
魏, 自立年号為隆緒, 翌年被北魏所滅」)
- 317◎北魏・孝昌三 (527) 年銘・石造弥勒仏立像  
(山東省広饒県, 『松原本』 挿図56)
- 318◎北魏・孝昌三 (527) 年銘・金銅二仏並坐像  
(有隣館蔵, 『松原本』 図103a)
- 319◎北魏・真王三 (527) 年銘・金銅二仏並坐像  
(『松原本』 挿図65, 「正光五年三月沃野鎮人破落  
汗拔陵聚衆反殺鎮将号真王元年」)
- 320◎北魏・真王三 (527) 年銘・金銅二仏並坐像  
(『松原本』 挿図63)
- 321◎北魏・孝昌四 (528) 年銘・銅造菩薩立像 (『松  
原本』 図101a)
- 322◎北魏・孝昌四 (528) 年銘・金銅弥勒菩薩立  
像 (『松原本』 挿図51)
- 323◎北魏・真王五 (529) 年銘・石造観音像 (曲  
陽出土, 『松原本』 挿図60)
- 324 北魏・永安 (528-530) 銘・銅造仏立像 {『久  
保六金』 図90, 天安 (466-467) 銘か永安 (528  
-530) 銘と考えられるが, 様式からは後者}
- 325◎北魏・永安三 (530) 年銘・石造三尊仏坐像  
(『松原本』 図96b)
- 326◎北魏・永安三 (530) 年銘・石造四面像 (『市  
美彫像』 図145)
- 327◎北魏・永安三 (530) 年銘・銅造観音立像 (『松  
原本』 図100e, 『久保六金』 図91)

- 328◎北魏・永安三(530)年銘・金銅菩薩立像(『市美彫像』図89) (旧山口コレクション, 現大阪市美蔵, 『みずゑ 912』図9)
- 329◎北魏・永安三(530)年銘・金銅菩薩立像(『松原本』図102a)
- 330◎北魏・建明元(531)年銘・石造像碑(寧夏固原県博物館蔵, 1981年寧夏回族自治区彭陽県新集郷新集村出土, 『全集3』図74)
- 331◎北魏・建明元(531)年銘・石造供養者立像(寧夏固原県博物館蔵, 1981年寧夏回族自治区彭陽県新集郷新集村出土, 『全集3』図75)
- 332◎北魏・普泰元(531)年銘・石造三尊仏碑像(旧山口コレクション, 現大阪市美蔵, 『松原本』図97, 『市美選集』図183, 『六朝』図53, 『みずゑ 912』図7上, 上部に維摩と文殊図)
- 333◎北魏・普泰元(531)年銘・石造仏碑像(陝西博蔵, 陝西省乾県出土, 『松原本』挿図57)
- 334◎北魏・普泰元(531)年銘・銅造仏立像(『松原本』挿図48)
- 335◎北魏・普泰二(532)年銘・石造仏碑像(『A. B. C』図31)
- 336◎北魏・普泰二(532)年銘・銅造仏坐像(『久保六金』図18)
- 337◎北魏・太昌元(532)年銘・金銅(馮貳郎造)観音立像(山東博興県文物管理所蔵, 1983年山東省博興県崇徳村出土, 『全集3』図100, 右脇侍あり, 左脇侍欠)
- 338◎北魏・太昌元(532)年銘・石造三尊菩薩坐像(『松原本』挿図226)
- 339◎北魏・永熙二(533)年銘・銅造仏立像(『松原本』図101c)
- 340◎北魏・永熙二(533)年銘・石造三尊仏立像(A. A. M. S. 『A. B. C』図32, 『遺珍続』図8)
- 341◎北魏・永熙三(534)年銘・石造三尊仏立像(Freer. 『松原本』挿図81, 『遺珍続』図16, 『中美』図23)
- 342◎北魏・永熙三(534)年銘・石造道教二面像(343◎北魏・永熙三(534)年銘・石造釈迦坐像(山西博蔵, 『松原本』挿図55)
- 344 北魏・永熙三年頃・石造三尊仏立像(Freer. 『中美』図28)
- 345 北魏晩期・金銅釈迦立像(新田コレクション, 『故宮金銅仏』図63)
- 346☆梁・中大通五(533)年銘・石造釈迦立仏龕(四川博蔵, 四川省成都西門外万仏寺遺址出土, 『全集3』図55)
- 347\*北魏・永熙三(534)年二月, 洛陽永寧寺九層塔炎上, 七月孝武帝洛陽より長安に走る, 十月東西魏に分かれる。
- 348 北魏末東魏初(534)頃・石造三尊仏立像(Freer. 『中美』図28, 『遺珍』図19)

\* [追記]

このノートは, 現在未完で不備である。したがって, 今後, 調査研究を継続・推進させていく中で, 多角的に批判・検討を加えて, 厳密なものに仕上げていく必要がある。つまり今後の発掘・発見などによる新出資料等を踏まえた上での追加・補足, あるいは厳密な資料批判の結果から導き出される事実に基づく新たな知見が出てくるものと予測されるからである。タイトルに「ノート」と入れたのも, あくまでもこれを叩台と限定して考えているからであることをあらかじめお断りしておく。